

個人用ノートパソコン等の準備について

入学後は、授業での活用をはじめ、履修する授業科目の登録手続きや成績確認、その他各種連絡など、学生生活においてノートパソコンを利用することになります。とくに、令和4年度からは全学生(四大学部、短期大学部)を対象とした「文理融合データサイエンス教育プログラム」(次ページに概要を記載)がスタートします。この教育プログラムでは、数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識や技術をノートパソコン等の情報機器を活用した学修を通じて、これからのデジタル社会に必要とされる基礎知識やICT活用スキルの向上を図ります。また、今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況によってはオンライン授業等を実施する可能性もあります¹⁾。

このような背景から、令和4年度の新入生のみなさまに、ノートパソコンとインターネット環境をご準備いただきますようお願いいたします²⁾。準備いただきたいノートパソコンとインターネット環境の詳細を以下に示しますのでご確認ください。なお、すでにノートパソコンを所有していて、以下の**学部ごとの要件**を満たしていれば、新たに購入する必要はありませんが、入学後のノートパソコンの利用状況に応じて、購入される際には以下の要件を満たす機種をご検討ください。また、経済的な事情などにより入学時までにはノートパソコンの準備が難しい場合には代替機器を一定期間貸与いたします(台数には限りがあります)。詳細は別途お知らせいたします。

1. ノートパソコンの要件

(a) ノートパソコンを所有している場合

看護学部、社会福祉学部、総合政策学部、盛岡短期大学部については、次の要件をすべて満たす機種を所有していれば、新たに購入する必要はありません。

- ・ 持ち運びに容易なノートパソコン(キーボードが取り外し可能な2 in 1型タブレットも含む)であること。
- ・ 無線LANによってネットワークに接続できること。
- ・ Microsoft 365³⁾(旧名 Office 365)とウィルス対策ソフトをインストール可能であること。

ソフトウェア情報学部については、次ページの表2の要件(基本仕様または推奨仕様)を満たす機種を所有していれば、新たに購入する必要はありません。

Microsoft 365 (Word、Excel、PowerPointなどが利用可能)とウィルス対策ソフトは、入学後に無償でインストールできます(在学中のみ使用可能)。なお、所有しているノートパソコンに、既にこれらのソフトウェアがインストールされていた場合、そのまま使い続けることもできますが、ソフトウェアのバージョンや種類が異なる場合などのときには入学後にインストールしてもらうことがあります(詳細は入学後のガイダンス等で連絡いたします)。

(b) ノートパソコンを購入する場合

学部指定の仕様を表1と表2に示します。ここで、**基本仕様**は大学の授業等で使用するための最低限の要件にあた

¹⁾ 本学では令和2年度の前期に5週間にわたりオンライン授業を実施しております。

²⁾すでにソフトウェア情報学部と宮古短期大学部では、それぞれ令和元年度と平成24年度の新入生からノートパソコンを必携としております。これらの学部の入学生のみなさまは学部からの通知もご参照ください(学部により内容が異なる場合があります)。

³⁾ マイクロソフト社のホームページ(<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/>)の「Microsoft 365 と Office のシステム要件」でご確認ください。

り、推奨仕様は円滑な使用のための要件にあたります。

表 1 看護学部、社会福祉学部、総合政策学部、盛岡短期大学部の仕様

	基本仕様	推奨仕様
オペレーティングシステム	Windows10 以降、または、macOS の最新 3 バージョンのいずれか	
CPU	インテル社製 Intel Core i3 と同等以上の性能を有する CPU	インテル社製 Intel Core i5、または、Apple 社製 M1 チップと同等以上の性能を有する CPU
メモリ	8GB 以上	
記憶装置(ストレージ)	128GB 以上	240GB 以上
無線 LAN	IEEE802.11a、802.11n または 802.11ac に対応	
バッテリー駆動時間	カタログスペックで 8 時間以上	
入力装置	物理キーボード(脱着式・分離式でも可)が使えること	
外部インタフェース	USB2.0 以上が利用できること 映像出力可能で有ること(アダプターによる対応も可) ウェブカメラが利用できること(USB 接続タイプも可)	
その他	持ち運びしやすいような重さや形状であること	

表 2 ソフトウェア情報学部の仕様

	基本仕様	推奨仕様
形 状	物理キーボード(脱着式・分離式も可)を備え、持ち運びが容易であること	
オペレーティングシステム	Windows OS:Windows 10 以降 macOS:macOS の最新 3 バージョンのいずれか	
CPU	動作クロック 1.8GHz 以上	Intel Core i / m シリーズ 同等以上
メモリ	8GB 以上	
記憶装置(ストレージ)	HDD 120GB 以上	SSD 120GB 以上
無線 LAN	IEEE802.11b/g/n のいずれかに対応	基本スペックに加え、IEEE802.11a/n/ac のいずれかに対応
バッテリー駆動時間	カタログスペック 5 時間以上	カタログスペック 8 時間以上
画面解像度	1280×768 以上	1920×1080 (Full HD)以上
外部インタフェース	HDMI 出力端子(変換コネクタを使用しても可) USB ポート×1(USB2.0 以上) マイク・スピーカが使用できること(外付け可、ヘッドセットなどでも可) ウェブカメラが使用できること(外付け可)	
セキュリティ	ウィルス定義ファイル等の自動更新が可能なウィルス対策ソフト (該当するソフトの一覧は、後日、本学ホームページで公開) 本学在学中は、本学が包括契約するウィルス対策ソフトを無料で使用可能	
アプリケーション	Google Chrome、Microsoft Edge、Mozilla Firefox、Safari のいずれか(いずれの場合でも最新版) Microsoft 365、または Microsoft Office 2019 以降 本学在学中は、Microsoft 365 を無料で使用可能	
その他	光学ドライブは、必須ではありません(本学在学中は、学内での使用に限り、大学の備品の借用可能)	

ソフトウェア情報学部については、学部が配布する「ノート PC の必携化について」や学部ホームページを参照してください。

<https://www.soft.iwate-pu.ac.jp/>

2. インターネット環境について

学内でノートパソコンを利用する場合は、学内の無線 LAN アクセスポイントを利用しながら、講義資料や各種連絡等の閲覧等が可能です。

さらに、自宅やアパート等からはインターネット環境を経由することで講義資料や各種連絡等の閲覧等が可能になります。そのため、必要に応じて有線(光回線など)や無線 LAN(Wi-Fi)で通信できる環境を、自宅(居住地)等でご準備ください。

3. その他

- ・新入生オリエンテーションのガイダンスで、学内でノートパソコンを使用するために必要な設定方法や学内情報システムの使い方、無償ソフトウェア(Microsoft 365 など)のインストール方法などを説明します。ノートパソコンはそのときまでに準備をお願いいたします。ガイダンスの日程は後日お知らせします。
- ・貸与可能なノートパソコンの台数に限りがありますので、申請者数が貸与可能な台数を超過した場合には、申請書類をもとに経済的な事情などを考慮しながら選考を行います。また、貸与されるノートパソコンについては、貸与期間は最長1年間、授業に関する目的以外の使用の禁止など、使用に際して制限があります。
- ・個人用ノートパソコン等の準備についての最新情報(ノートパソコンの貸与、Q&A、利用可能なウィルス対策ソフト一覧など)は、本学ホームページで公表していきますので、ご参照ください。

<http://www.iwate-pu.ac.jp/>

- ・岩手県立大学生協では、受験生・新入生サポートの一環として、パソコン等の取扱いを行っています。詳細は大学生協ホームページ(<https://www.ipu.u-coop.or.jp/>)をご確認ください。

【問い合わせ先 教育支援本部担当】

メールの件名(Subject)を「〇〇〇〇学部のノートパソコン」として、次のメールアドレス宛てにお願いいたします

byod@ml.iwate-pu.ac.jp

(@は半角にしてください)

令和4年度からの「文理融合データサイエンス教育プログラム」の概要

本学では「数理・データサイエンス・AI」はこれからのデジタル社会の基礎知識としてとらえ、学部を問わずすべての学生が学修できる新たな教育プログラムを構築し、令和4年度以降の入学生を対象として開始することといたしました。この教育プログラムは、下図のように、「リテラシーレベル」と「応用基礎レベル」に分かれています。「リテラシーレベル」に対応する科目は、四大学部の基盤教育科目、盛岡短期大学部と宮古短期大学部では専門科目、それぞれで開講されており、ノートパソコンを活用した授業が行われます。これらの科目を履修することにより、数理・データサイエンス・AIが社会でどのように活用されているのか理解し、自らの専門分野の学びに活用することができるための基礎的素養を身につけることができます。さらに、四大学部の高学年次(短大からの編入生含む)では「応用基礎レベル」の科目が開講されます。

なお、教育プログラムの詳細については、入学後のガイダンスなどで説明いたします。

